

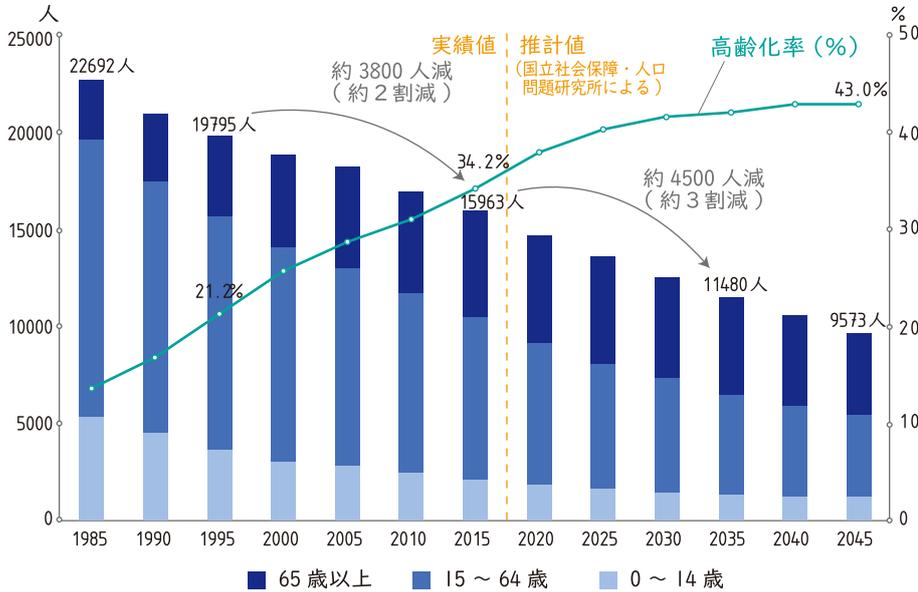
西之表市 港町再生基本構想



目次	・・・2
1 西之表市を取り巻く状況	・・・3
2 計画策定の背景	・・・5
3 みなとラボレポート 2019	
・ みなとラボとは？	・・・6
・ 港町の資源	・・・8
・ 港町の課題	・・・9
・ 港町の理想の未来	・・・10
・ 大切にしたいキーワードと目指すビジョン	・・・11
・ 今後のアクションプラン案	・・・12
4 ビジョンの実現に向けた港町の整備方針	・・・14

西之表市を取り巻く状況

人口動態



出典：2015年までは国勢調査
2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所による推計

本市は、昭和34年の33,593

人をピークに顕著な減少が続いており、平成27(2015)年直近の国勢調査では15,963人と半減しています。

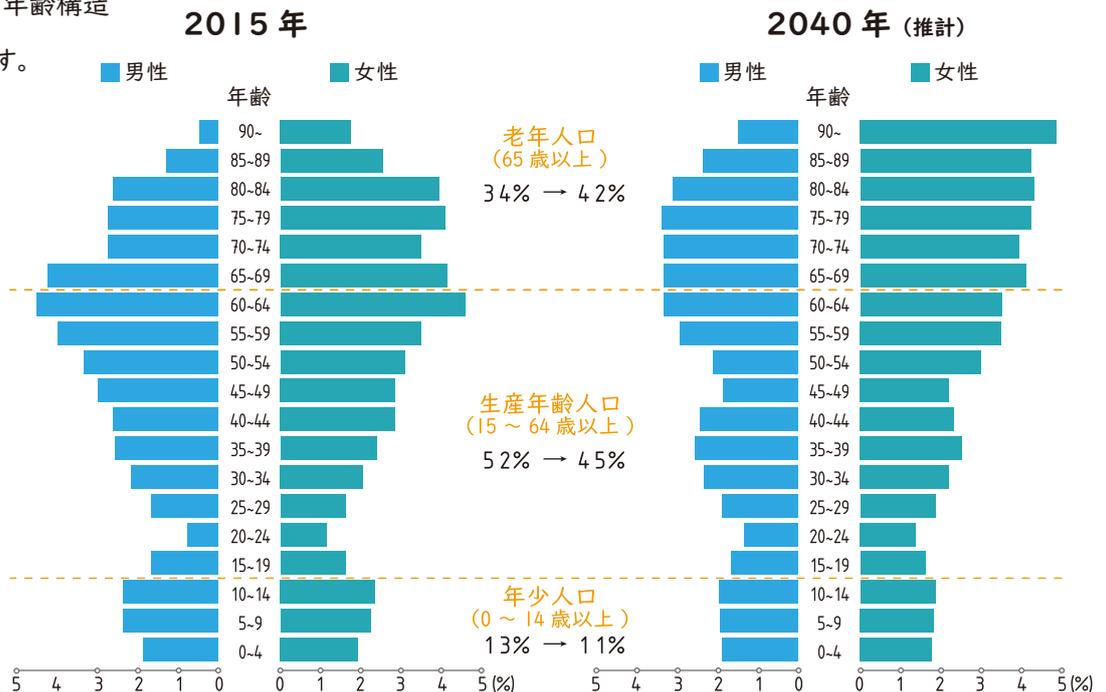
平成7(1995)年には2万人を割り込み、約30年後の2045年には1万人を割り込む可能性があります。

高齢化率(65歳以上の老年人口の割合)は平成27年で34.2%と国(26.6%)や鹿児島県(29.4%)よりも高く、特に生産年齢人口層の減少幅が大きくなっています。

年齢構造

本市では、離島である特性から、進学や就職のために20歳前後の若年層が島外へ流出する傾向があり、年齢構造の不均衡が顕著となっています。

2045年の高齢化率(65歳以上の老年人口の割合)は42%と推測されており、さらに不均衡が顕著となる可能性があります。

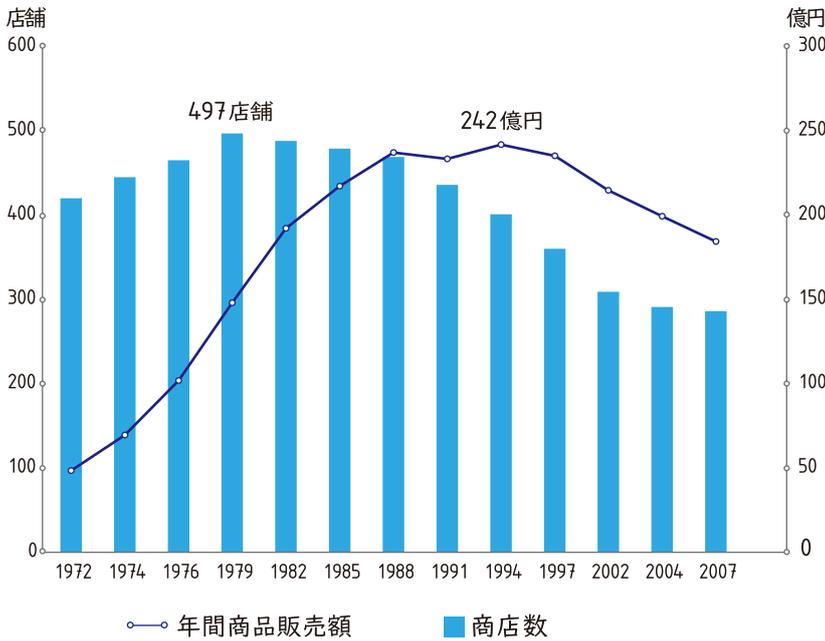


出典：地域経済分析システム

商業動向

本市の店舗数は、昭和54（1979）年をピークに減少を続けていますが、平成14（2002）年以降は以前と比べて急激な減少ではなく、微減となっています。

また、年間商品販売額では平成6（1994）年をピークに減少しており、平成19（2007）年には180億円まで落ち込みました。郊外への大型店舗の進出のみならず、ネット購買等により年々減少しています。

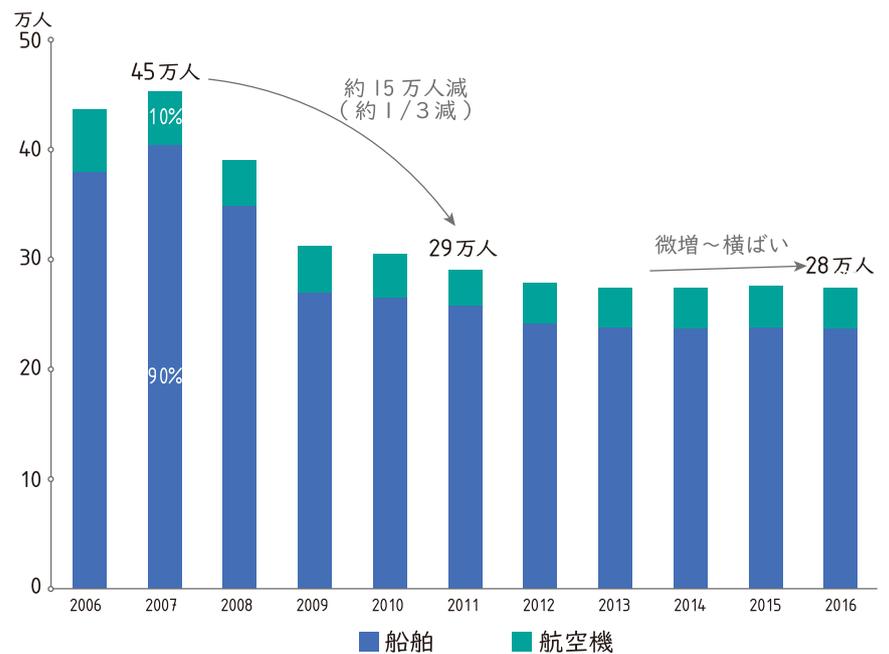


出典：商業統計

入込客数

種子島への入込客数は平成19（2007）年度をピークに減少傾向でしたが、平成26（2014）年度から微増及び横ばい傾向に転換しています。

近年は、入込客の約9割が船舶により来島しており、西之表港を利用しています。



資料：種子屋久観光連絡協議会

計画策定の背景



種子島の玄関口である西之表港は、古くは赤尾木港と呼ばれた時代から国内外に開かれた拠点とされてきました。後背地には赤尾木のまちなみが残る商店街が形成され、種子島の商工業の中心として機能してきました。

西之表市では、平成30年度からスタートした第6次長期振興計画において、市の将来像を「人・自然・文化—島の宝が育つまち」とし、本市の重点課題である「人口減少・年齢構造の不均衡・高齢化の進展」「地域力の衰退」「担い手不足」の解決を図ることとしています。

その中で、「港町再生」は、「歴史と国際色豊かな港町の再生を図り、中心市街地の活性化」を図る商工業振興の重要なテーマの一つとなっています。

今回、港町再生を考えるにあたり、

①現在西之表市に住む人たちにとって港町の可能性を最大限に活かすこと

②地域外の方々にとって魅力を感じる港町をつくること

の2つの方向性から、官民連携によるまちづくりを進めていくため、市民参加型の意見交換の場を設置し、方針についての議論を重ねました。

この計画は、港町再生にあたり、行政が取り組む内容と市民や民間が取り組んでいく内容を明確にし、それぞれが責任を持って取り組んでいくため、市民有志と西之表市役所職員が対話を重ねた先にまとめた港町の未来像です。

みなとラボや庁内検討会で検討したビジョン等については、各種団体や地域、通り会、鹿児島県（オブザーバー）等によって組織した港町再生推進検討委員会でそれぞれの立場や専門的な知見からご意見をいただきました。

みなとラボとは？

- ①港町の未来を市民目線で描く
- ②未来のための一歩を自ら踏み出す
- ③明るく楽しいまちの実験場

ビジョン策定にあたり、西之表市民および出身者を中心に30名のまちづくり検討チームを結成しました！（2018年10月より、月1回の会合を実施）

みなとラボ設立の背景

地方だけでなく、国としても人口減少を迎えている状況。それにより「人材不足」「税收減少」「価値観の多様化」などの様々な問題がある。

Step1

Step2

Step3

人生を振り返る

参加者同士が人生を共有しあうことでお互いのことを深く知り合う

まちの議論・経緯に触れる

今回開催されるみなとラボの背景と、港町の現状に触れる

港町を歩いてみる

実際に港町を歩くことで見えてきた「課題」「資源」を整理する



3つの重要な視点

意識の切り替えを！

役所批判 **×**

➔ 自分たちで描いていく

誰かを批判したり、反対を訴えるだけでは地域は変わっていきません。"自分たちで描いていく"意識を持つことから始めましょう。ここで大切になるのは「対話」。相手の意見に耳を傾け、自分の感じたことや考えを伝えることが必要です。

例えば、相手の意見を批判するのではなく、「それはちょっと難しいと思うけどどうかな?」とやわらかく言葉を返してあげるだけで、安心して話せる対話の場が守られます。

視点の切り替えを！

外のだれかを待つ **×**

➔ 小さな一歩を踏み出す

地域やまちのことを考え始めると、小さいことも大きいこともいろんな考えやアイデアが生まれていきます。「誰かがやってくれる」ことを待つのではなく、まずは自分で踏み出せる小さな一歩を考えてみましょう。

よりよいプロジェクトづくりにつなげるために、有効になる軸は「やりたいこと・できること・求められていること」の3つが重なることを意識してみてください。

軸の切り替えを！

〇〇すべき **×**

➔ 〇〇したい！

心からわくわくできる、やりたいと情熱を注げることのエネルギーがあればできることは広がっていきます。地域で何かを始めるとき、「〇〇すべきだ」「〇〇しなければならない」ではなく、「〇〇やりたい!」を軸に、地域の皆さんが"やりたいこと"を語りあえる場をつくることも大切です。

まだやりたいことがない人は、やりたいことがある人の応援に回ることから始めましょう!

Step4

Step5

Step6

理想と現実の ギャップを確認する

1人ひとりが「理想とする未来」と「それに対する現実(課題等)」について考える

理想の未来を イラストに描く

少人数グループで港町の理想の未来を創造したイラストを描く

大切にしたい キーワードを決める

理想の未来を描く中で見えてきた大切にしたいキーワードを出し合い、それぞれが共感できるものへ投票を行う



港町の資源



自然・港・景観

海に隣接	漁港	旧港跡
堤防 (東町公園前)	築島	岸岐
川水路	漁協の市場	おさかなセンター
自然	夕日 (スポット)	熊毛支庁への階段の景観

まちの中にはたくさんの資源があります！

まちかどの、あのひとも、
まちなかの、あの場所も、
見方によっては、大切な宝物。
そんな宝物＝資源を生かして、
まちの魅力を高めていきたい！

みなさんも、港町の資源を
探してみましょう。

文化・歴史

八坂神社 (旧慈遠寺)	ポルトガルと のつながり	
くろしお アート	アニメ	ゲーム

交通

サグレス 通り	港近くに 商店街がある	
駐車場が 多い	生活 道路	市民 駐車場

空き地・空き家・空き店舗

散歩コース、 釣り	池村呉服屋 跡地	
あらかしホテル前 の休有地	空き地 分団跡地	空き家 空き店舗

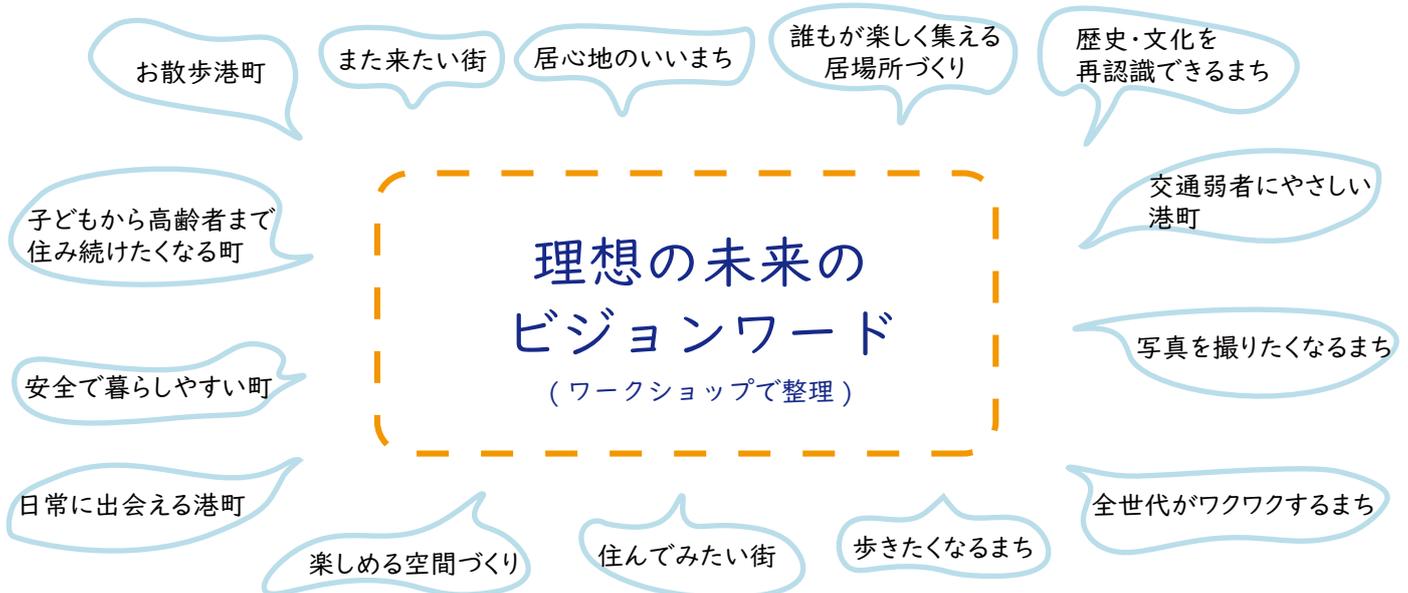
サービス

港にWi-Fi がある	座れる場所 が多い
----------------	--------------

人

人の近さ	気さくに 話しかけてくれる
------	------------------

港町の理想の未来



官民連携によるまちづくりを進めるにあたり、めざしたい理想の姿を言語化したところ、下記4つの方向性が市民によって提示されました。

- "また来たくなる、全世代がわくわくできる" みなとまち
- "歩きたくなるお散歩" みなとまち
- "写真を撮りたくなる" みなとまち
- "歴史・文化を再認識する" みなとまち

港町にかかわる
多様な世代の人がつながり、共に考え、行動する中で、この町にある宝を見つけ、磨き、一緒に育てていける、そんな港町を目指すことで議論がまとまりました。



■ ■ ■ ビジョンを実現するための最初の一步 ■ ■ ■

芭蕉布のれんプロジェクト

「写真を撮りたくなるみなとまち」に向けて、まずは商店街の外観を変える可能性を検討。種子島に古くからある素材（バナナの木）を使って「のれん」をつくってみることに！

地域のいろんな人と一緒にワークショップ形式でのれんをつくりました！



歴史カルタプロジェクト

「歴史・文化を再認識するみなとまち」に西之表市に数ある様々な伝説や文化的な集め、一つの形にまとめるプロジェクトかるたを作ってみることに！



大切にしたいキーワードと 目指すビジョン

【大方針…みなとまちビジョン】

市民目線で港町のもつ可能性と課題を考え、行政、民間企業、市民が一体となってこれからの港町の在り方を描き、理想実現のために最初の一步をふみだす場として描いた理想の未来として、大方針を下記のとおり決めました。

「世代を超えたふれあいによって
宝をはぐくむみなとまち」



まちなかカフェプロジェクト

「歩きたくなるお散歩みなとまち」に向けて、気軽に歩いて通いたくなるカフェを街中のいろんなどころに開設してみました。

市長がふらりとお越しいただくことも！！

普段はさりげなく
過ごしている場所も
人が集えばカフェに！

様々な伝説を収集し
素敵なイラストと
組み合わせてみました！



今後のアクションプラン案

2019年4月～2020年3月

1. 人の集まる場づくり事業

①活動の場の整備・運用

…まちかどインフォメーションセンターを様々な活動の拠点として整備・運用する。

- ➔コワーキング機能
- ➔パーティ／コミュニティ機能
- ➔スタジオ機能 ほか

②運営チームの組織化

…みなとラボ、継続的運営手法の検討

- ➔既存の各種団体、市役所等との連携の在り方検討
- ➔収益事業のテストマーケティングによる「稼ぎ方」検討

③情報発信インフラの整備

…みなとラボに関することを中心に、港町の観光関連情報を発信するプラットフォームメディアの整備

- ➔Blogメディアの設計&ライターの養成
- ➔SNSでの情報発信
- ➔まちづくり企画合同記者発表

2. 戦略的プロジェクトの実行支援

①全世代がわくわくできるみなとまちプロジェクト

…ゲームを活用したまちづくりイベント開催

②歩きたくなるお散歩みなとまちプロジェクト

…みなとまちカフェなどのつながりづくり

③歴史・文化を再認識するみなとまち

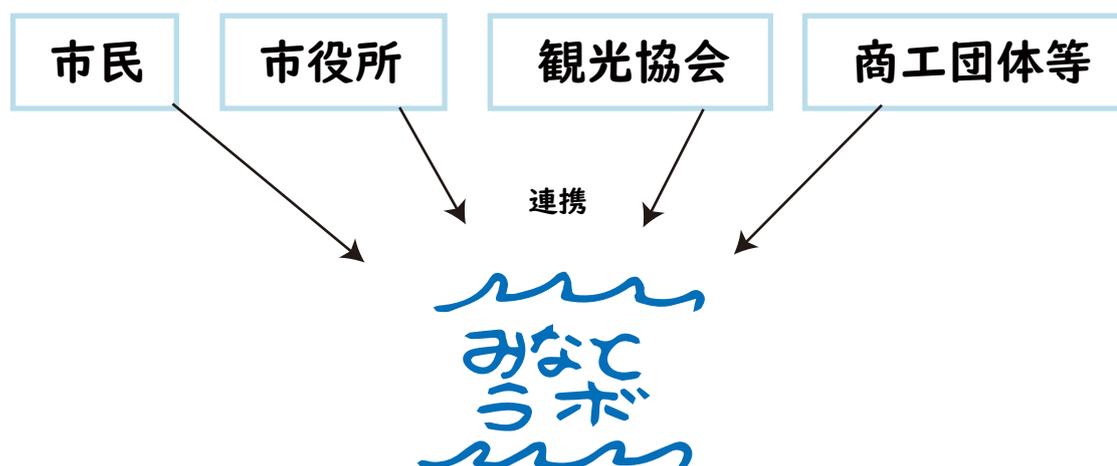
…みなとまち伝説カルタづくり

④写真をとりたくなるみなとまちプロジェクト

…港町の景観改善リノベーション（のれん、照明などへの提案）

法人化

正式メニュー化



(仮称) みなとラボ

一般社団法人、NPO法人、合同会社、株式会社等なにかしらの法人格を有する

主要業務は、下記を想定

1. 港町の活性化や観光関連のプロジェクトをすすめる拠点の運用
2. 各団体（市役所、観光協会、商工会など）との連携
3. 港町活性化関連業務の情報発信
4. 港町の多様な主体によるコミュニケーションの機会づくり
5. 戦略的プロジェクトの実施主体化

【収益モデル】

- | | |
|--------------|-----------------------------|
| ①イベント運営 | ⇒みなとカフェなどの運用に関する収入 |
| ②広報媒体運用 | ⇒Web媒体を中心としたSNS連携広報による広告費収入 |
| ③拠点運営 | ⇒会費や利用料収入 |
| ④会費収入 | ⇒加盟企業や個人からの負担金収入 |
| ⑤物販収入 | ⇒拠点での物販収入 |
| ⑥リノベーション事業収入 | ⇒港町の各種商店や施設へのリノベ支援収入 |
| ⑦商店街組織の事務局 | ⇒事務の委託料収入 |

ビジョンの実現に向けた 港町の整備方針

≪ 港町再生基本構想 ≫

歴史と国際色豊かな港町の再生

ビジョン

「世代を超えたふれあいによって
宝をはぐくむみなとまち」

理想の
未来

" また来たくなる、全世代がわくわくできる " みなとまち
" 歩きたくなるお散歩 " みなとまち
" 写真を撮りたくなる " みなとまち
" 歴史・文化を再認識する " みなとまち

基本
方針

ソフト事業

- コミュニティを基軸とした港町利用促進

H30 設立の「みんなのみなとまち研究所（みなとラボ）」の活動を継続していく中で、港町再生に関するソフト面の取り組みの充実と自立化を目指します。

ハード事業

- 赤尾木のまちなみを生かした港町の再生

- 軸別戦略 -

- ① 港からのリーディング軸
- ② 赤尾木（歴史・文化）・大手筋
- ③ 赤尾木（歴史・文化）・本城軸
- ④ 赤尾木（歴史・文化）・旧上妻家軸
- ⑤ 商店街リーディング軸
- ⑥ ポルトガル交流（国際）軸
- ⑦ 港町再生中核軸

- エリア別戦略 -

- ① みなとゾーン
- ② まちなかゾーン
- ③ 赤尾木（歴史・文化）ゾーン

- 3つの拠点 -

- ① 古民家
- ② 集客交流施設（榕城分団跡地）
- ③ 中核施設



西之表市役所経済観光課の横山です。
ここからは、みなとラボでの議論を踏まえ、市役所庁舎内で整理した今後の港町の整備方針です。
今後ビジョン達成のために、どんな風に港町を整備するかという具体的な方向性についてご紹介します。

赤尾木のまちなみを生かした港町の再生

重ねてきた赤尾木の歴史を参考として3つの戦略として整理しました。



赤尾木のまち

港と武家町を街道でつなぎ、港と接する町人町の中を横に広がる街道沿いに商店等があることで、島外から来た来訪者と赤尾木に住む武家や町人、島内住民の交流によってにぎわいがあった。



図 29 赤尾木城東下町復原図

港

- ・ 古くは赤尾木津と呼ばれ、遣明船の寄港地、また、倭寇の基地。
- ・ 旧港は渡唐船以来の南海の要衝地だが、暗礁が多く、安永・天明まで使用。
- ・ 港口には 30 間 (54m) の築島。
- ・ 万延元年 (1860 年) 4 月に松寿院が港内拡張と航行安全のため築島を増築し、岸岐の建設に着手。

町人町

- ・ 西町・東町・春日・石原は、職人・町人が住む町人町。
- ・ 町人集落は、海岸沿いの狭い低地部分と河岸段丘部分に発達。
- ・ 西町から赤尾木城の方向に上る道は、金物細工師が軒を連れる「金屋の小路」
- ・ 西之表幼稚園は「札の辻」があった場所であり、藩政時代の糺明所 (様々な事柄を調べる所) の跡。町人町の中心であり、ここに、官布告高札を立てて、人々に告知を行っていたのでは。
- ・ 春日の麓には西町の氏神である慈遠寺 (現八坂神社) があり、オギオン様と呼ばれた。

武家町

- ・ 赤尾木城の北と南には士族 (麓士) が居住。
- ・ この麓地区には、本源寺・慈遠寺 (現八坂神社)・大会寺などの法華寺院や種子島久基公を祀る栖林神社などが位置。
- ・ 月窓亭も赤尾木城の北に位置し、明治期以降は種子島家住宅として使用。
- ・ 旧上妻家住宅も武家町に位置。
- ・ 赤尾木城の南に面する広い街路は、武士たちの乗馬の稽古場であり、練兵場であった「犬の馬場」。

町人町と武家町をつなぐ

- ・ 「大手筋」・・・大手門から犬の馬場を抜け、西町まで続く街路
- ・ T字型の交差や一段掘り下げた堀切など、軍事上の防衛。
- ・ 「本源寺坂」・・・市役所前の坂。離島の特徴である珊瑚の石垣。

第5次長期振興計画に基づき、平成25年度から取り組まれた「にぎわい創出」での検討結果

ア. 「集中」機能と「回遊」機能の必要性

にぎわいを生み出す様々な機能を分析し、一般的には人を集める＝「集中」機能、人を回遊させる＝「回遊」機能が必要であることを定義。

イ. にぎわい圏の設定

まちなかには、規模の異なるにぎわい圏が存在しており、第一に中心で集客して一次にぎわい圏（西町・東町周辺）でぶらぶらと歩きながら楽しみ、第二に二次にぎわい圏（鉄砲館や月窓亭）へと目的別に歩いてもらう必要がある。

ウ. 古民家の発見

一次にぎわい圏及び二次にぎわい圏に古民家が点在しており、本市の資源として有効性を見出した。

「理想のみなとまち」を進めるための3つの戦略

7本の軸

種子島の海の玄関口である西之表港をメインゲートと位置づけ、港からまちなか、まちなかから歴史的資源へ7つの軸を設定し、それぞれの特徴を生かした取り組みを進めます。

- ・港からのリーディング軸
- ・赤尾木（歴史・文化）軸
（大手筋軸・本城軸・旧上妻家軸）
- ・商店街リーディング軸
- ・ポルトガル交流（国際）軸
- ・港町再生中核軸

3つのゾーン

7つの軸を面的に捉え、それぞれの特徴を生かしたつながりある包括的な取組を進め、地域全体の魅力向上に努めます。

- ・みなとゾーン
- ・まちなかゾーン
- ・赤尾木（歴史・文化）ゾーン

3つの拠点

軸とゾーンをつなげ、本市全体への波及効果を高めるために、魅力ある拠点を配置し、活用を検討します。

- ・古民家
- ・集客交流施設（榕城分団跡地）
- ・中核施設

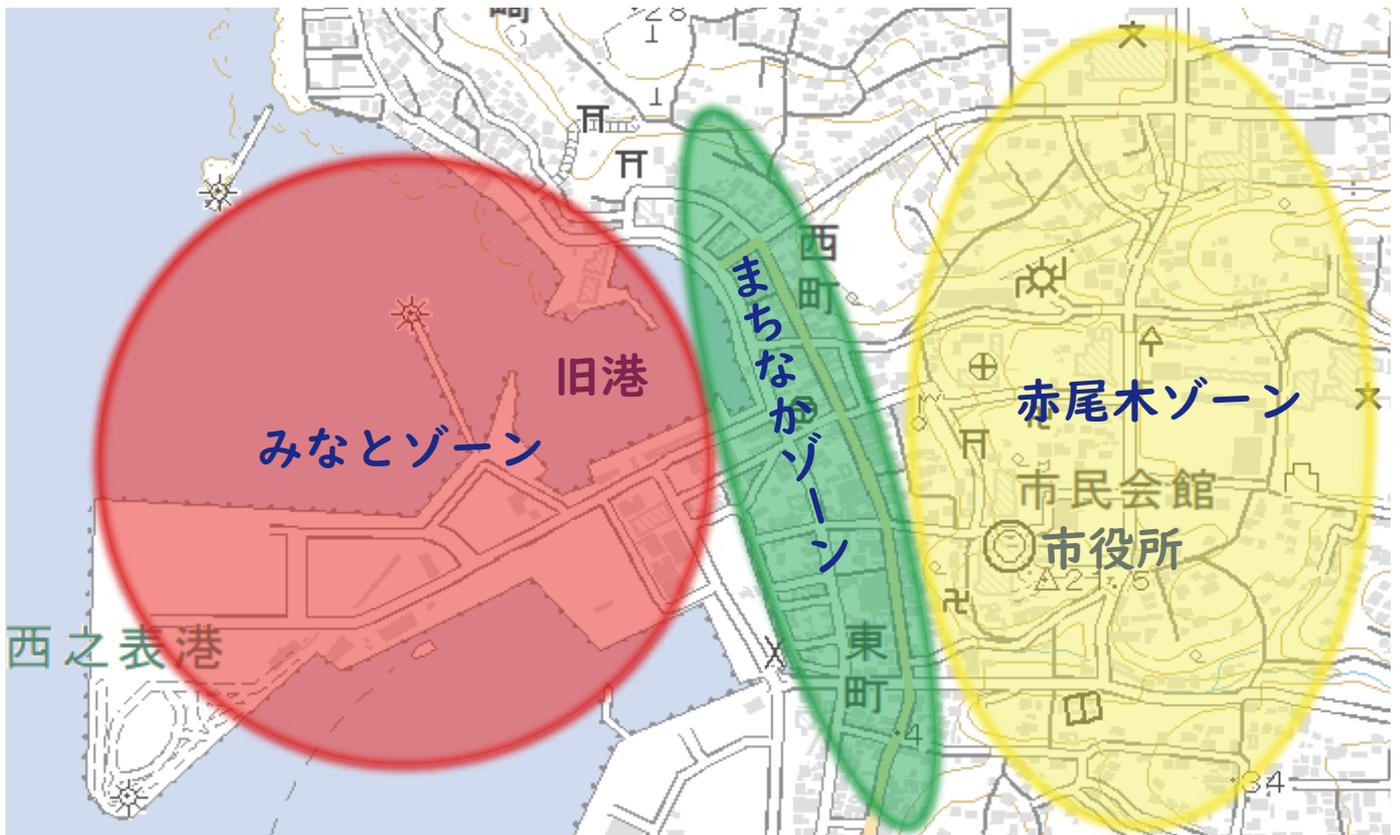


港町再生に向けて、
おおきく3つの戦略を描いてみました。
次のページでは、そのエリアを具体的に
提案します。

7本の軸



3つのゾーン



3つの拠点

拠点1

古民家の活用

古民家には歴史があり、大きな特徴を有していることから、観光資源としてのみならず、人々の交流の場とし、3つのゾーンをつなぐための拠点として文化財保存活用地域計画と連携を図りつつ活用を検討します。

拠点2

集客交流施設・憩いの場の設置の検討

まちなかゾーンに位置し、港町再生中核軸と商店街リーディング軸とが交わる非常に重要な場所に榕城分団跡地があります。商店街に求められる店舗の誘致やこれまでまちなかにあまり出かけていない子育て世代、ビジネスによる来島者が多いという現状等を踏まえた施設や場を設置し、港町再生の発展につなげます。

拠点3

中核施設の設置

赤尾木のまちのように、港町の活気が市内全体へ波及することを目指し、みなとゾーンからまちなかゾーン、赤尾木ゾーンによって種子島の魅力を伝え、地域経済の活性化を図るため、中核施設の設置を検討します。

3つの戦略を進めるために検討していくもの

3つの戦略を効果的に進め、基本構想の実現化を図るため、次の取組を検討していきます。

みなとゾーン



みなとゾーンは、港湾機能の強化とともにまちなかまでの導線の整備と、中核施設の設置を検討します。



長期

港湾機能の強化 (県とともに検討)

- ・物流と人流の分離による安心・安全で快適な港湾施設の整備
- ・インバウンド対策や大型客船の寄港に対応するためのターミナル施設の設置
- ・安全性の向上のため耐震強化岸壁の整備
- ・津波発生時の安全対策や観光資源としての活用として日ポ公園への展望所の設置
- ・日ポ公園の有効活用

長期

まちなかまでの 「港のリーディング軸」 の整備

- ・まちなかまでの屋根付の歩道整備
- ・西之表港やまちなかまでの植樹による景観整備
- ・まちなかまでの道沿いにチャレンジショップとしてコンテナ等の設置

中期

築島・岸岐の活用

- ・岸岐までの遊歩道及び入口への看板の整備
- ・築島へ誘導するための看板の設置

長期

旧港の活用 (県とともに検討)

- ・「港のリーディング軸」の終点（郵便局前）の船溜まりへの四阿及び駐車場の設置
- ・旧港を散策するためのボードウォークの設置

短期

中核施設の設置

- ・港町再生の中核となる施設の設置

まちなかゾーン



中期

景観の統一

・まちなかを訪れた人が楽しめる景観やまちなみを協議

中期

個店の魅力向上

・まちなかを訪れた人が楽しめる、入りたくなる店舗としての魅力向上

中期

空き店舗の活用

・空き店舗の情報収集や貸出意向等を集約し、商業集積を図るための取組

長期

アニメ・ゲームの活用

・商店街を舞台としたゲームの発売等も活用した取組

短期

商店街の通行対策

・「商店街リーディング軸」は幅員が8m程度で歩道もないことから、歩行者の安全及び円滑な通行のため一方通行化の検討
・歩行者への歩道確保や台風対策として電柱の地中化

短期

榕城分団跡地の活用

・港町再生の中核となる施設・商業集積地である商店街に位置することや、港町再生中核軸からまちなかに誘客するために、また、幅員が狭い道路の安全性向上のため、隣接地も含めて集客交流施設の整備を検討

短期

遠藤邸の活用

・まちなかの中心部にあり、また、大手筋軸に位置していることから、赤尾木ゾーンのゲートとしての活用を検討

まちなかゾーンでは、景観に配慮しつつ、商店街のにぎわいづくりを進めます



赤尾木ゾーン



赤尾木ゾーンでは、赤尾木の歴史や文化財の活用を軸に、環境整備を行います。

中期

文化財保存活用地域計画の策定

・「文化財の確実な継承に向けたこれからの時代にふさわしい保存と活用に向けた在り方」として、市内全域の文化財について来年度から策定

中期

旧上妻家の整備・活用

・国庫補助等を活用した修復等を進め、文化財保存活用地域計画において活用策を検討

中期

石畳の整備

・赤尾木ゾーンのゲートのなる遠藤邸へのルートについて歴史を感じる石畳の整備を検討

中期

文化財の情報発信

・文化財保存活用地域計画の策定とともに文化財の情報を集約し、効果的な情報発信を検討



構想は、まだまだ始まったばかり。
これからビジョンをもとに、具体的な取り組み
を官民連携で進めていきます。
皆様のご協力をよろしくお願いします!

西之表市 港町再生基本構想

平成31年 3月

発行：西之表市 経済観光課

デザイン：一般社団法人鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab

【当冊子についてのお問い合わせ】

西之表市役所 経済観光課 商工政策係

TEL 0997-22-1111 (内線：271,274)

E-Mail shoukou@city.nishinoomote.lg.jp